

製品・サービス動向-国内

■ニューロネット：ビデオチャットも可能な
コールセンター「Moshi Moshi Interactive」
ver3 をリリース

(2月28日)

ニューロネット株式会社
(<http://www.neuronet.co.jp/>) (東京都町田市) は、
同社が提供している映像型 WebRTC コンタクトセン
ターの新バージョン「Moshi Moshi Interactive」ver 3
をリリースすることを発表した。



Moshi Moshi Interactive (ニューロネット)

Moshi Moshi Interactive(2014年10月22日発表)
はビデオチャットを通じて顧客とリアルタイムの会話が
可能な映像型クラウドコンタクトセンターソリューション。
顧客は「Web ページのボタンを押すだけ」で
直接コールセンターに連絡することができ、迅速な
サービス享受が可能となる。

従来の自ら電話をかけるかメールやお問い合わせ
フォームで連絡するなどとは異なり、顧客とエージェ
ントがお互いの顔を見ながら通話できるため、会話内
容の理解度や企業に対する信頼度がさらに高まるとし
ている。

新バージョンでは、新機能の「PBX 連携」と Web
接客機能の強化を追加した。まず PBX 連携では、従来
の電話型コールセンター (PBX) に、Moshi Moshi
Interactive のビデオチャット・ビジュアル機能を追加
することができるようになった。

また Web 接客機能の強化の面では、映像通話に加え、
以下の機能が利用可能になった。(1) テキストチャ
ット/ビデオチャット。(2) ブラウザ共有/画面共有/ア
プリ共有を用いたより視覚的なプレゼンテーション、
(3) お申込みなどのクロージングを促進する入力
フォーム共有機能。顧客からもエージェントからも双
方向同時入力が可能。(4) スマートフォン・タブレッ
トに対応。

ニューロネットによると PBX 連携を皮切りに、今後、
各種ソーシャルサービス、またあらゆる顧客チャネル
をつなぐオムニチャネルプラットフォーム戦略を展開
予定という。

ニューロネットは2002年設立。Web 会議 SaaS サー
ビス「SaaSBoard」や映像型コンタクトセンター Moshi
Moshi Interactive など IT を通じて人と人とのふれあ
いを促進する各種製品およびサービスの開発・提携を
行っている。2016年には小池百合子 東京都知事より
「世界発信コンペティション東京都ベンチャー技術特
別賞」を受賞。

※関連記事：定期レポート：2014年10月31日号

■NTT アイティ：Web 会議 ASP サービス MeetingPlaza Version 8.5 をリリース、少人数説明会向け新画面レイアウトを追加し共有機能など改良を実施

(2月22日)

NTT アイティ株式会社(<http://www.ntt-it.co.jp/>) (横浜市中区) は、Web 会議 ASP サービス「MeetingPlaza (ミーティングプラザ)」をバージョンアップし、3月12日より提供を開始する。

新バージョンは、「MeetingPlaza Version 8.5」。新しい画面レイアウト「コンパクトセミナー」を追加した。少人数説明会(例：IT 重説や金融機関の窓口支援の応対記録)など新たなシーンでの利用に向けてユーザエクスペリエンスを考慮した。また、接続検知機能などの点でユーザビリティの改良も行った。



資料共有モード (NTT アイティ)



「音が聞こえますか?」 ---アシスタント画面

(NTT アイティ)



参加者の設定画面を開いているところ---アシスタント画面 (NTT アイティ)

コンパクトセミナー画面は、MeetingPlaza を初めて利用する人にも簡単に利用できるよう UX を根本から考慮してデザインに取り入れた画面レイアウトとなっている。

デスクトップイメージを共有する方式となるため、主宰者と参加者は常に同じレイアウトで同じ内容が表示される形。そのため主催者が会議を主導しやすく、参加者の音声デバイスの設定トラブルなどにも対応しやすいレイアウトを実現している。今回のバージョンアップは、企業内や企業間での会議だけでなく、顧客と企業間のコミュニケーションにも Web 会議の利用が拡大することを見据えてのものという。

新画面では、ファイル共有やデスクトップ共有が可能に加え、会議開催と同時に自動的に録画が開始されるようになっている。加えて、音が聞こえない、映像が映らないなど参加者側で発生したトラブル(参加者はヘルプを押し主催者へ通知する)を主催者が音声設定や映像設定を遠隔から変更するなどフォロー(アシスタント機能)できるようになっている。

一方、改良点については、まず会議中のマイク・スピーカー、Web カメラデバイスの接続検知が可能になった。デバイスの接続忘れによる会議室への再入室などの手戻りがなくなる。つぎに、アプリケーション共有の向上。共有映像の品質向上を行い、より精細に見える共有が可能になった。最後に、設定ウィザードの操作ステップ数を減らした動作確認ツールの改良も

行っている。

新バージョンでの提供機能は3月12日よりサービス提供を開始する。なお本バージョンアップによる価格の改定はない。

MeetingPlazaは4,000社を超える導入実績を持つオンライン会議システム。発売以来、Web会議で重要となる音声の高品質化、映像帯域の低減と品質の向上、タブレット向けの機能強化、グローバルなサービス網の構築など、サービスや機能向上に継続的に取り組んでいる。

なお、MeetingPlazaは、「ワークスタイル変革 関西2017」(3月2日、3日/グランフロント大阪)、「ワークスタイル変革 東京2017」(3月9日、10日/ザ・プリンスパークタワー東京)に出展する。

■フルーク・ネットワークス：Cat 8に完全対応したLAN配線認証用テスター「DSX-8000 ケーブルアナライザー」を新発売

(2月14日)

株式会社 TFF フルーク (<http://jp.flukenetworks.com/TFF>) (東京都港区)は、業界で初めて、カテゴリ8フィールド試験規格要件に完全対応したLAN配線認証用テスター「DSX-8000」を新発売、2月14日より提供を開始した。

メタルから光ファイバー配線の敷設業務を迅速、正確にかつ収益効果を高めつつシステムの検収完了までを支援するために設計されたVersivファミリー製品でケーブル配線認証用アナライザー「DSXシリーズ」の新製品となる。またオプションで「OTDRモジュール」(光パルス試験器)も提供する。

今回特に、今後のデータセンター向けの配線規格として注目を浴びているCat 8に業界で初めて完全対応し、最速クラスのテスト機能(Cat 6Aで8秒)を搭載した。また、クラウド環境を用いて複数の測定プロジェクトを同時に管理できるLinkWare Live(リンクウェア

・ライブ)にも対応、スマホ感覚のタッチパネル操作で、テスト時間の高速性と複雑な認証プロセスの管理を実現している。

認証試験時間の低減化をもたらし、LinkWare Liveと共用することでグループ作業の効率化やアセット管理機能による稼働率アップにより、測定に関するトータルコストの低減に寄与するとしている。

DSX-8000シリーズの価格は195万円～(税別)。OTDRモジュールの価格は94万円～(税別)。なお、DSX-8000シリーズはキャッシュバックキャンペーンを実施中(2月14日～4月28日)。

TFFフルークは、テスターからネットワークインフラ管理まで幅広いネットワーク関連製品を提供する米フルーク・ネットワークスの日本法人。

ビジネス動向-国内

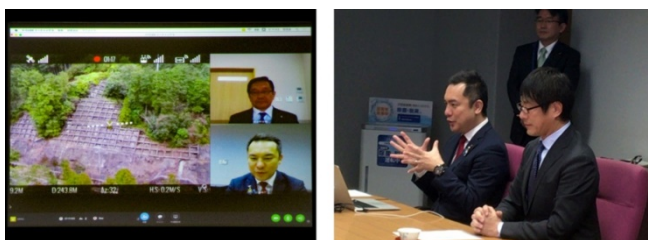
■ブイキューブロボティクス・ジャパン、三重県と共同で「ドローン映像伝送技術の多面的活用に係る実証実験」を実施

(2月24日)

株式会社ブイキューブロボティクス・ジャパン (<http://www.vc-robotics.com/>) (東京都渋谷区)は、2月20日、三重県 (<http://www.pref.mie.lg.jp/>) と共同で「ドローン映像伝送技術の多面的活用に係る実証実験」を実施した。

ブイキューブロボティクス・ジャパンは、三重県とドローンを活用した地域活性化に関する包括協定を締結(2016年12月発表)している。今回の実証実験は、同協定に基づいて、災害対策や施設管理、観光情報発信など行政活動におけるドローン活用の有用性を検証するため実施された。

実証実験は、南海トラフ地震や台風による大雨などの大規模自然災害による被害が想定される紀北町で実施された。



三重県庁と紀北町撮影現場をつないで状況把握・情報共有の有効性を確認する様子

(ブイキューロボティクス・ジャパン)

紀北町内 3 カ所でドローンによる撮影を行い、その映像を関係する行政機関の 4 庁舎に、ブイキューロボティクスのソリューションを利用してリアルタイムに伝送・共有し、発着場所と行政庁舎の計 5 カ所を中継した会議が行われた。

現場の様子をリアルタイムに確認しながら、紀北町側と三重県側の行政機関同士が意見交換を実施し、災害発生時などに、関係者が即時に連携しながら、意思決定ができることが確認された。

三重県では現場の状況を把握しすぐに指示を出せる点などを評価し、今後、ドローンを扱う人材の育成にも力を入れて、来年度 4 月以降に本格導入したいと考えているという。

■ドコモ・システムズと富士通ミドルウェア、企業情報システム「dDREAM」および Web 会議サービス「sMeeting」で代理店契約締結

(2 月 28 日)

ドコモ・システムズ株式会社 (<https://www.docomo-sys.co.jp/>) (東京都港区) と富士通ミドルウェア株式会社 (神奈川県横浜市) は、ドコモ・システムズのクラウド型企業情報システム「dDREAMS」およびクラウド型 Web 会議サービス「sMeeting」の販売に関する代理店契約を締結した。

本代理店契約に基づき、富士通ミドルウェアの親会社である富士通株式会社 (東京都港区) においても

dDREAMS および sMeeting の販売が可能となる。

ドコモ・システムズは、長年にわたり dDREAMS および sMeeting の開発パートナーとして豊富なノウハウを蓄積してきた富士通と販売パートナーシップを構築し、富士通グループの営業力を活用することで、働き方改革やセキュリティの課題を抱える企業向けにさらに販売を強化するという。

dDREAMS はもともと、ドコモグループ内の共通情報基盤として 10 年以上にわたって自ら開発・最適化を繰り返し、グループのセキュリティ向上、業務効率化、働き方改革を実現してきたシステム。現在約 60 社、15 万人のビジネスパーソンが利用しており、さらに約 20 社で導入プロジェクトが進んでおり、2016 年度末には 22 万ユーザに拡大する。

一方、sMeeting は、ドコモ・システムズが提供するクラウド型 Web 会議サービス。1 対 1 のコミュニケーションから大規模会議までサポートし、1 ライセンスあたり月額 2,000 円から利用可能。同時接続制のため会議室や利用者を限定せず使いたいときに自由に会議を開催できる。音声は Opus コーデックを採用、高音質で聞き取りやすく、途切れにくいのが特長。

ドコモグループでの利用に加え、現在進行中の NTT グループへの導入を通じて培った経験とノウハウを基に高品質と低コストでサービス提供を実現しているとしている。

ビジネス動向-海外

■ブロードソフト：Avaya パートナーに向けたクラウド UcaaS/CCaaS 移行プランを提供

(2 月 28 日)

ブロードソフト社 (米国) は、アバイア社 (米国) パートナーのサービス移行をサポートするための「マイグレーションプラン」を提供することを発表。

ブロードソフト社は、クラウド型ユニファイドコミュニケーション/コラボレーション (UcaaS) 及びコンタクトセンター (CCaaS) サービスを提供する世界的なプロバイダー。

このマイグレーションプランは、ブロードソフトの新しい総合ビジネスプラットフォーム「BroadSoft Business」を用いてクラウドサービスへの迅速かつスムーズな移行を後押しするもの。

BroadSoft Business はビジネス向けのクラウド PBX、ユニファイドコミュニケーション (UC)、コンタクトセンター、チームコラボレーションといった実務用アプリケーションがひとつのプラットフォーム上で利用できる画期的なモデル。

BroadSoft Business で提供するサービスポートフォリオは主に以下の3つ。(1)「UC-One」:HD オーディオ、ビデオ、メッセージング、画面共有、ファイル共有、会議開催などさまざまなビジネス機能を統合した UcaaS コラボレーションスイート。PC、タブレット、携帯電話などあらゆる端末から利用できる。

(2)「CC-One」:完全クラウド型コンタクトセンタープラットフォーム。充実したサービス体制と柔軟なサポートでカスタマーエンゲージメントの向上が見込められる。またアナリティクス機能を活用することで運用コストの削減と業績向上が期待できる。

(3)「Team-One」:チームコラボレーションをサポートする最高クラスのクラウドソリューション。タスク、ファイル、メッセージ、メモなどチームで共有したい資料をひとつのプラットフォーム上に保存できるほか、ビデオ会議、音声通話、画面共有などビジネスに必須な機能も多数付属しているとのこと。

Avaya パートナーでかつ BroadSoft Business への移行を検討中の企業は、ブロードソフトのパートナープログラムに加入できる。

日本法人は、ブロードソフト・ジャパン株式会社 (<http://broadsoft.jp/>) (東京都港区)。

Report

※CNAレポート・ジャパン橋本啓介による検証・取材レポート

■バイキューブ:会議室設置型テレビ会議システム「V-CUBE Box」の設置・操作の“簡単さ”を検証する

<https://blog.vcube.com/evaluate-v-cube-box-by-cna-report-japan.html>

■バイキューブ:V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証 (前編)

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-1>

■バイキューブ:V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証 (後編)

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-2>

■パイオニア VC:“ものづくり”の現場を支える、遠隔コラボレーションシステム「xSync Prime Collaboration」取材レポート

<https://blog.vcube.com/xsync-prime-collaboration.html>

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

(USB スピーカーフォン FLX UC 500)

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■株式会社ブイキューブ

(テレビ会議システム V-CUBE Box)

<https://jp.vcube.com/service/box/>

■日立ハイテクソリューションズ

(Vyopta ビデオコラボレーション解析・レポートサービス)

<http://www.hitachi-hightech.com/hsl/products/ict/hightech-vision/lineup/vyopta.html>

セミナー・展示会情報

<国内>

■失敗しない「Web 会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー ～ビジュアルコミュニケーションツールの選び方をデモを交えてご紹介～

日時：2月・3月

会場：東京都・大阪府・愛知県

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：

<https://jp.vcube.com/event/seminar/201606151900.html>

※その他セミナー情報：<https://jp.vcube.com/event/seminar/>

■「ビデオ会議をもっと自由に -簡単!もっと広がる新しいクラウド型会議サービス」

日時：3月7日(火) 10:00～

会場：オンラインセミナー (自席のPCから参加)

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：

<http://response.polycom.com/01-JP-E-PS-2017-Q1-PolycomWebinar.JA-LP>

※講演者：ソフトバンク株式会社クラウドサービス統括部
プロダクト企画部 部長 鈴木 邦佳 氏

■Adobe Connect で実現する Web セミナー

日時：3月22日(水) 18:00～18:30

会場：自席のパソコン (ブラウザ)

主催：株式会社サムライズ

詳細・申込：

http://www.samuraiz.co.jp/event/05_170322.html

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回 (プレスリリースと取材に基づく記事) ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々配信・共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック (遠隔会議&UC トレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter (CNA レポート・ジャパン)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト (dte-forum)

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2016年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2017年2月28日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp